

外国籍児童のための母語保持教室の実践 — 日本と母国を結ぶ国際的人材の育成をめざして —

福 岡 昌 子

A Practice Report on Providing First Language Teaching for Immigrant Children

FUKUOKA Masako

〈Abstract〉

As part of Mie University's regional contribution activities first language maintenance classes have been delivered across Tsu City since 2009. At present this consists of Portuguese and Chinese language lessons for immigrant children delivered at Mie University and community schools.

There are three main objectives. Firstly, in partnership with City Hall and its Board of Education we contribute to building a symbiotic multicultural society. Secondly, we promote the importance of L1 maintenance and in doing so protect and support the establishment of immigrant children's identity. Thirdly, we collaborate with local communities to develop immigrant children into bilingual and bicultural citizens able to bind Japan with their mother countries.

In this report we address creation of teaching materials, progress to date, teacher support & guidance, current guidance issues and the views of parents and teachers.

More research and investigation is necessary to develop a high quality support system which will facilitate the development of bilingual/bicultural internationalised people who can contribute to and prosper in Japanese society. Through this activity we seek to contribute to building a successful symbiotic multicultural society in partnership with local communities.

キーワード：母語保持教室、外国籍児童、ブラジル人学校、地域貢献事業、定住外国人

1. はじめに

本学には、地域貢献活動の創造及び推進を目的とし、教育・研究に基づく自主的な活動として行う「三重大学地域貢献活動事業」⁽¹⁾がある。その事業に、本事業の「外国籍児童のための母語保持教室」が採択され、2009年度より津市近郊の外国籍児童を対象に中国語・ポルトガル語母語保持教室を継続実施している。

本事業の目的としては、次の3点である。①ブラジル人学校、市役所、教育委員会と連携し、地域の多文化共生社会の構築に貢献する。②外国籍児童や保護者に母語保持の重要

性を伝え、アイデンティティの確立を支援する。③地域と協働して外国籍児童を育み、将来の国際的人材の育成を目指す、というものである。

本稿では、2009年度2010年度に実施した取組みを紹介し、実践活動の意義について考察する。

2. 本事業の概要

本事業の発端は、二つある。一つは、学位取得のため長期日本滞在が予測される中国人留学生が、子弟のために母語である中国語教育を国際交流センターで開講してほしいという相談に来られたのがきっかけである。現在日本に暮らす子供が、現地語である日本語に押され、家庭でも日本語で会話し、いずれ国へ帰る際に中国語が話せないと困るという深刻な問題を抱えていた。また、もう一つは筆者が（社）日本語教育学会の中部地区研究集会委員在任のときに、2008年度日本語教育学会中部地区研究集会（2008.6.07 於：南山大学）で、トロント大学東アジア研究科名誉教授中島和子氏をお招きし、「多文化共生社会を担う日本語教師へ：日本語指導における母語の役割」というテーマでご講演いただいたこともきっかけとなった。このとき、日本に住む外国籍児童の母語保持の重要性を再認識するに至った。

中島（2008）によれば、カナダへ移民した外国籍児童は流暢な会話力を持つが、第2言語（英語）だけによる授業だと、授業についていくことができないという研究結果（Cummins：1984）を紹介し、授業中に展開される抽象的な思考活動において、不可欠な認知活動と関連した言語能力「認知・学習能力」（Cognitive Academic Language Proficiency）は、学習者の第1言語（母語）能力と相互関係にあることを述べた。そして、海外子女教育の研究から、幼児の母語が伸びにくい環境に手当てせずに置かれていると、使用言語が母語から現地語に置換し、会話は流暢だが、読み書きや抽象的な語彙・概念や教科学習が追いつかなくなる。また、9、10歳を分水嶺として日本生まれや幼児期に来日した子供は、母語も第2言語もできない「ダブルリミテッド現象」が出現し、母語も日本語も育ちにくくなることも紹介した。これらの研究結果より、中島は母語の重要性を指摘し、親子の絆となることば、母語を通して行動のルールや価値判断を学ぶために、家庭では自信を持って話せることば（母語）をしっかりと使い、学校では日本語を学習するのが重要であると、指摘した。この「ダブルリミテッド現象」は、外国籍児童の多くが居住する三重県においても、学校教育関係者からも多くの問題が指摘されており、日本語指導のあり方について検討され、鈴鹿市など外国籍児童のための日本語教育事業が展開されつつあった。

これらの経緯により、2009 年度（平成 21 年度）より本学の「地域貢献活動事業」として「外国籍児童のための母語保持教室」を実施することにした。

3. 実施内容

3. 1 実施期間・会場：

中国語母語保持教室：於）三重大学国際交流センター演習室 3. 4 教室

2009 年 7 月 11 日（土）～2009 年 12 月 26 日（土）10：00～12：00 計 20 回

2010 年 7 月 3 日（土）～2010 年 11 月 6 日（土）10：00～12：00 計 15 回

ポルトガル語母語保持教室：於）ブラジル人学校アポーヨミエ

2009 年 9 月 12 日（土）～2010 年 2 月 13 日（土）10：00～12：00 計 20 回

2010 年 7 月 17 日（土）～2010 年 10 月 30 日（土）10：00～12：00 計 15 回

実際の実施期間は、父母からの要望もあり、申請した実施期間よりも長く、ほぼ通年にわたって実施された。

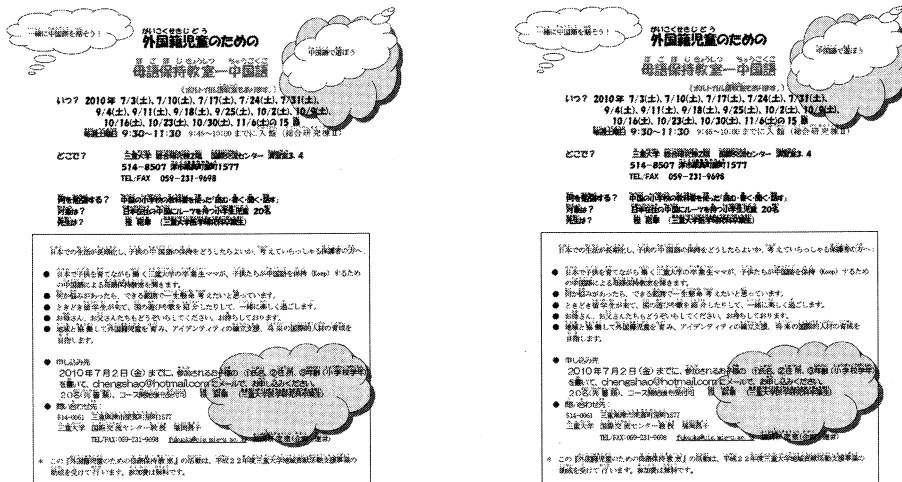


図 1. 中国語母語保持教室及びポルトガル語の母語保持教室の募集案内

3. 2 参加人数

中国語母語保持教室：2009 年 10 名、2010 年 11 名

ポルトガル語母語保持教室：2009 年 10 名、2010 年 12 名

3. 3 実施金額

2009 年度：20 万円（予算額 20 万円）：謝金

2010 年度：15 万円（予算額 15 万円）：謝金

3. 4 実施者および共同実施者、講師:

- ・コーディネーターは福岡、共同実施者として津市市役所および県教育委員会職員、ブラジル人学校職員から協力支援を受けた。
- ・中国語母語保持教室では、2009年度は三重大学医学部非常勤講師（元本学留学生）、2010年度は、「三重中国語母語維持会」の保護者が輪番制を組んで指導した。ブラジル人学校では、日系人職員の教員2名が指導した。

4. 学習内容⁽²⁾

4. 1 中国語母語保持教室

教材：漢語教材『汉语』と『汉语練習冊』（北京華文學院編、暨南大學出版社）⁽³⁾

進度：第1冊目は、1回（2時間）で2課進み、第2冊目以降は1回（2時間）で1課進む（表1の中国語母語保持教室の進度表を参照）。修了者には修了書を渡した。

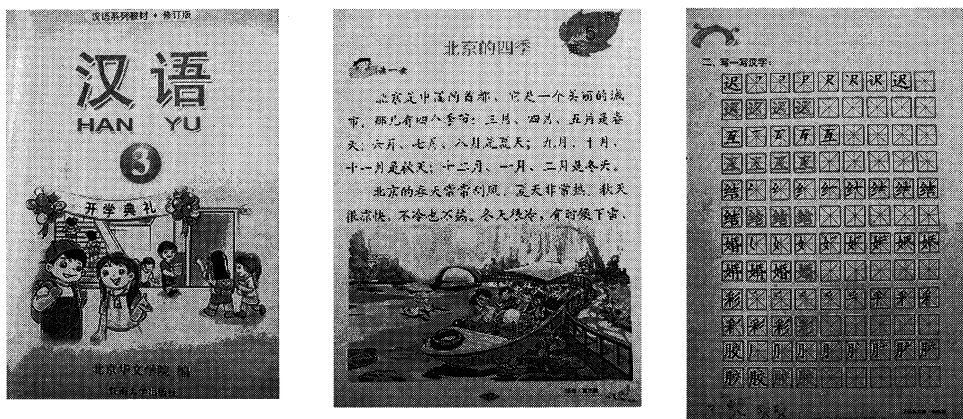


図2. 中国語テキスト（『汉语3』と『汉语練習冊』）

指導方法：ピンインの習得から単語を学ぶ。文章を説明しながら、生徒に聞く、話す、読む、書くことの総合練習を行う。コミュニケーション能力を向上させるために、学んだ単語や文型を使って文を作り発表する。

指導ポイント：①中国の文化、習慣など取り入れる。

②学習者それぞれの弱점에配慮し、個別指導を行う。

表 1. 中国語母語保持教室の進度表
(2010 年抜粋、保護者による「中国語母語維持会」作成)

日 程	1 限 講義内容	2 限 講義内容	宿 題
第 1 日目	拼音の復習、『汉语1』第 1 課 (本文)	第 1 課 (練習)	第 1 課新出漢字、朗読
第 2 日目	第 1 課復習 (朗読)、第 2 課 (本文)	第 2 課 (練習)、拼音復習	第 2 課新出漢字、朗読
第 3 日目	第 2 課復習 (朗読)、第 3 課 (本文)	第 3 課 (練習)、拼音復習	第 3 課新出漢字、朗読
第 4 日目	第 3 課復習 (朗読)、第 4 課 (本文)	第 4 課 (練習)、拼音復習	第 4 課朗読、練習冊
第 5 日目	第 4 課復習 (朗読)、第 5 課 (本文)	第 5 課 (練習)、拼音復習	第 5 課朗読、練習冊
第 6 日目	第 5 課復習 (朗読)、第 6 課 (本文)	第 6 課 (練習)、拼音復習	第 6 課朗読、練習冊
第 7 日目	第 6 課復習 (朗読)、第 7 課 (本文)	第 7 課 (練習)、拼音復習	第 7 課朗読、練習冊
第 8 日目	第 7 課復習 (朗読)、第 8 課 (本文)	第 8 課 (練習)、拼音復習	第 8 課朗読、練習冊
第 9 日目	第 8 課復習 (朗読)、第 9 課 (本文)	第 9 課 (練習)、拼音復習	第 9 課朗読、練習冊
第 10 日目	第 9 課復習 (朗読)、第 10 課 (本文)	第 10 課 (練習)、拼音復習	第 10 課朗読、練習冊
第 11 日目	第 10 課復習 (朗読)、第 11 課 (本文)	第 11 課 (練習)、拼音復習	第 11 課朗読、練習冊
第 12 日目	第 11 課復習 (朗読)、第 12 課 (本文)	第 12 課 (練習)、拼音復習	第 12 課朗読、練習冊
第 13 日目	第 12 課復習 (朗読)、第 13 課 (本文)	第 13 課 (練習)、拼音復習	第 13 課朗読、練習冊
第 14 日目	第 13 課復習 (朗読)、第 14 課 (本文)	第 14 課 (練習)、拼音復習	第 14 課朗読、練習冊
第 15 日目	第 14 課復習 (朗読)、第 15 課 (本文)	第 15 課 (練習)、拼音復習	第 15 課朗読、練習冊
第 16 日目	復習① (第 1～第 4 課) 読课文、単語	復習② (第 5 課～第 7 課)	
第 17 日目	復習③ (第 8～第 9 課) 読课文、単語	復習④ (第 10 課～第 11 課)	
第 18 日目	復習⑤ (第 12～第 13 課) 読课文、単語	復習⑥ (第 14 課～第 15 課)	

4-2 ポルトガル語母語保持教室

文法教材：『Coleção Eu gosto』(Célia Passos & Zeneide Silva (著作・編集)、「IBEP」
(印刷・製本)

副教材⁽⁴⁾：『Caderno do Futuro』Célia Passos & Zeneide Silva (著作・編集)、
「EDITORIA FTD S・A」(印刷・製本)

進度：1 回 (2 時間) で 1 課ずつ進む。表 2 の進度表を参照。修了者には修了書を渡した。

指導方法：レベル 1 アルファベットの習得から基本的な語彙や構文を学ぶ。

レベル 2 既に身についた基本的な語彙や構文を、身の回りで活用させるよう
に指導する。道順を尋ねたり、外食をするなど日常の社会生活を送
るために必要で基本的な会話を学ばせる。

レベル3 ポルトガル語の基礎と会話スキルをベースにしてコミュニケーション能力を磨き、自分の意思や感情を表現したり、最近の出来事などについて自主的に会話を作らせる。

- 指導ポイント：①教材は2種類用意する。
- ②意欲がある学習者に時間を許せば、授業後に少し補習をする。
- ③ブラジルの文化、習慣、料理、音楽を題材に取り入れる。
- ④学習者には、さらに学習意欲を高める配慮をする。

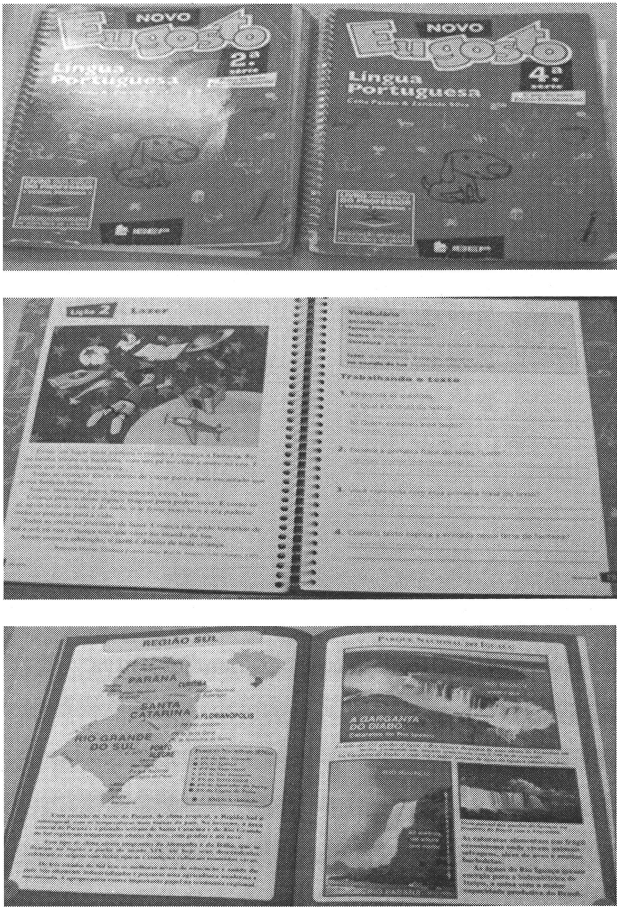


図3. ポルトガル語母語保持教室テキスト (『Apostila Objetivo』)

表 2. ポルトガル語母語保持教室の進度表（2010 年抜粋 担当教員作成）

日 程	初 級	中 級
第 1 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	ブラジルの地理の教科書（オブジェチーボ）、ブラジルと世界の地理・記述部分を使ったポルトガル語の学習
第 2 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	ブラジルの地理の教科書（オブジェチーボ）、西部中央、西部の都市の記述部分を使ったポルトガル語の学習
第 3 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	ブラジルの地理の教科書（オブジェチーボ）、国立公園。パンタナウ、マツグロッソの記述部分を使ったポルトガル語の学習
第 4 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	ブラジルの地理の教科書（オブジェチーボ）、南東部の都市の記述部分を使ったポルトガル語の学習
第 5 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	ブラジルの地理の教科書（オブジェチーボ）、北部の都市の記述部分を使ったポルトガル語の文章の学習。
第 6 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	A から Z までの学習、音節 Ba から Za までの音節、ブラジルの地理を通しての文章の学習
第 7 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	A から Z までの学習、音節 Ba から Za までの音節。ブラジルの地理を通しての文章の学習
第 8 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	A から Z までの学習、音節 Ba から Za までの音節、ブラジルの地理を通しての文章の学習
第 9 日目	アルファベット練習帳による文字の学習	A から Z までの学習、音節 Ba から Za までの音節、ブラジルの地理を通しての文章の学習
第 10 日目	絵カードを用いた簡単な語彙の習得	音節 Ba から Za までの音節、ブラジルの地理、南部の人口などの統計、産業などの学習。
第 11 日目	絵カードを用いた簡単な語彙の習得	その他の音節を学習し、例文を自分で作ってみる。ポルトガル語の文法の練習問題。
第 12 日目	絵カードを用いた簡単な語彙の習得	文節、短文を作る。ローマ字を書く練習をする。
第 13 日目	絵カードを用いた簡単な語彙の習得	短い文章を作り語彙を増やす。同じ音節を持つ単語を調べる。
第 14 日目	絵カードを用いた簡単な語彙の習得	ポルトガル語の文法の学習。ポルトガル語の短い文章の学習。
第 15 日目	絵カードを用いた簡単な語彙の習得	自分で文章を作り、文法を学習する。

5. 担当指導教員及び保護者等の感想

5. 1 中国語母語保持教室

「中国語母語保持教室」の保護者（1）、（2）および担当指導教員（3）：

（1）息子は中国で生まれ、一歳二ヶ月のときに日本へ連れて来ました。それから、保育園、幼稚園に通わせ、現在小学校の2年生になっています。

息子は中国語が話せるように、六年間私達夫婦はなるべく彼に中国語で話かけています。今、息子は中国語が話せますが、自然に話す言葉は日本語です。やはり日本語の環境では日本語の方が楽なようで、会話する時中国語につまったら、すぐ日本語を混ぜて話をする事が多く見られます。中国語で自分の言いたい事がきちんと伝えられない場合もあります。もちろん読み書きも困難というように、不安な日々が続いています。去年、「中国語母語保持教室」が開かれ、子供が中国語を学ぶ機会が増えました。子供の将来の事に頭を抱えていた親にとって、とてもありがたく思いました。

息子は教室に参加してから、中国語に少しずつ興味を持つようになり、最近中国の絵本も少し読めるようになりました。これからも読解力が向上し、また簡単な文書が書けるようになることを望んでいます。教室の実施により子供の母国語の成長が見えました。母国語を身につけることができれば、子供の将来にきっと役に立つと思っています。

私は三重県に在住している多くの中国人外国籍児童の保護者の一人として、子供が中国語や中国の文化が継続的に学べるように「中国語母語保持教室」を末永く開いてほしいと願っております（朱）。

（2）近年日中両国の友好交流が進むに伴い、在日中国人が増えています。私もその中の一人です。長年日本で生活し、いろんな困難を超えて来た私達は、それぞれの分野に活躍しながら日中両国の懸け橋になれるように努力しています。その一方で、またまたいろんな悩みを持ち続けています。その中で、最も頭が痛いのは、やはり次世代の教育問題であると個人的に感じます。子供の教育についてどのようにすればよいか迷っています。子供は日本で生まれ、日本の保育園・幼稚園・小学校……、そして日本人の先生・日本人の友達など、多くの方々の中で成長しています。このまま行くと、遠くない将来間違いなく日本人になると思います。しかし親としては、この問題を繰り返してもう一度考えてみると、何も悪い事ではないが、逆にいろいろな心配が起きてくると思っています。こんな不安な日々を過ごし続けていたところに、「中国語保持教室」が始まったので、とても意味があると個人的に考えております。週に1度の2時間の授業は、子供として若干負担や疲れを感じるかもしれません。しかし、子供時代に、今までと違う環境や雰囲気、違う教育方式を体験させると、子供にとってプラスになり、充実した生活が送れるのではないでしょう

か。また何事も基礎がとても重要である子供時代に、語学の学習は建築にたとえると土台作りと言えるかもしれませんが、中国語を保持すれば自分の未来にもう一つの建物・もう一つの世界が作れるのではないのでしょうか。私は保護者の一人として、この「中国語保持教室」プログラムが続き、支援していただければ、ありがたいと思っています（陳）。

(3) 中国語母語保持教室の講師の一員として、子供達と楽しく勉強しています。毎回の授業は子供達にとって貴重な学習の時間です。ですから、効率的で分かりやすく、また、面白く教えられるように工夫しなければいけないと思っています。子供達の母語が発達することは嬉しい事です。さらに、子供達や保護者の間でも相互交流ができるのもいいと思います（朱）。

5. 2 ポルトガル語母語保持教室

「ポルトガル語母語保持教室」に関して、保護者（1）と担当指導教員（2）（3）：

(1) Nós viemos com família para o Japão em 2000 e moramos no Japão durante dez anos, Bianca Akiko Fonseca nasceu no Brasil logo depois a trouxemos para o Japão. Ela está no quarto ano de Escola primária de T. Ela deixou de estudar o português para estudar em uma escola primária no Japão, E não havia uma oportunidade para aprender o português. Com isso nos preocupamos sobre o futuro da nossa filha. Agradeço a oportunidade que foi dada a minha filha de aprender a língua materna, participado na sala de aula de língua portuguesa da Universidade de Mie é, valioso para nós os estrangeiros, e somos muito grato.

Voltaremos com a família para o Brasil no fim de dezembro, mas pensamos que a experiência que nossa filha adquiriu nesta sala de aula de língua portuguesa vai ajudá-la muito no Brasil. Gostaria de pedir que continuassem com essa sala de aula da língua portuguesa, para que outros brasileiros que ficarem aqui tenham a mesma oportunidade que minha filha teve (Isabel Cristina Paulino Fonseca).

(1)′（翻訳）私達一家は2000年に来日し、日本に約10年間住んでいます。娘はブラジルで生まれ、生後すぐに日本へ連れて来ましたが、今年で満10歳になり現在T小学校の4年生です。この間日本の小学校で勉強させて来ましたが、当然ながら学校ではポルトガル語を学ばせる機会は無く、娘の将来を心配した私達は近隣のブラジル人学校でポルトガル語も学ばせることにしました。このポルトガル語母語保持教室には今回で二度目の参加になりますが、母語を学ぶ機会の少ない私達外国人にとって貴重な時間になりありがたく感謝しております。

この度私達一家は12月末にブラジルに帰国する事になりましたが、この母語教室で学

んだ経験は娘のブラジルでの生活に大いに役立つものと思います。ただひとつ望むことは、今後日本に残る同胞の為に更に高度なポルトガル語を学べるように、継続的な取り組みをお願いしたいと考えます。ありがとうございました（イサベル クリスティーナ パウリニョ フォンセカ）。

(2) Como professora estou muito satisfeita com as aulas de português aos sábados, pois estamos dando chance para muitas crianças, que não podem vir nas aulas de reforço durante a semana. Elas estão se dedicando ao estudo e com ótimo progresso na leitura e escrita (Tanaka Catarina De Souza Correa).

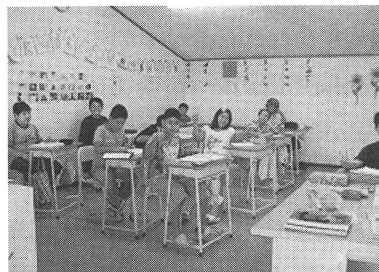
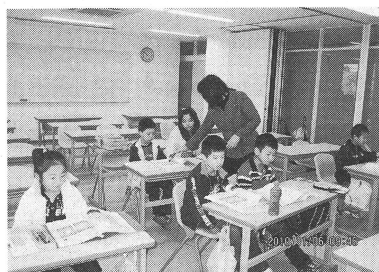
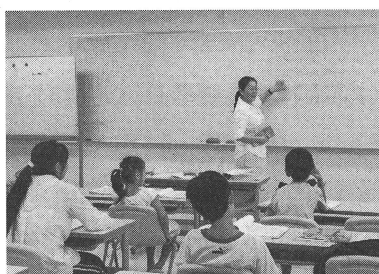


図4. 中国語母語保持教室（左）とポルトガル語母語保持教室（右）における学習風景

(2)′（翻訳）母語保持教室を担当する教師の一人として、土曜日の母語保持教室は非常に満足しています。なぜなら、普段いろいろな事情で母語を学習することができないでいる子供達が、この教室で母語での読み書きを飛躍的に進歩させているからです（田中カタリーナ）。

(3) -Eu agradeço para que as crianças podem aprender o português por esta classe. É importante que as crianças aprendam um costume e a tradição do país de origem. Porém, não havia uma oportunidade para aprender aqui. Nós lhe agradecemos. Esta crise economia, o pai de crianças não pode pagar por educação. Esta classe ajuda as crianças. No futuro destas crianças, é instável. Esta classe é útil quando as crianças voltarem para o próprio país.

Nesta classe, crianças estão ansiosas aprendendo palavras. estamos satisfeitos com o progresso de crianças. esperamos que esta classe continue. Agradecemos as pessoas planejaram esta classe (Yada Maria Sueli De Lima)

(3)′ (翻訳) 多くの子供達は、母語、習慣、伝統など本国のことを知る機会がないので、その重要性を理解していただいたことに、指導員として大変感謝しています。本事業は、子供達ばかりでなく、この不況下において経済的に出資が困難な保護者達にとっても、大きな助けになっています。この子供達の将来は、非常に不安で予測が困難であり、母国への帰国を必要とした場合においても、ブラジル社会への適応が難しく、社会への適応という点でも役立つと思います。教室が始まって、子供達はブラジルの国や母語に対しても関心を示しています。私達は、子供達が進歩した姿を見て満足しています。また、これから母語を学ぼうとする子供達にも、このような事業を受ける機会が提供されることを望みます (矢田スエリ)。

6. 実施意義と考察

平成2年の出入国管理の法令改正以降、多くの地域において就労制限のない定住の在留資格で日本に居住する「日系ブラジル人」が増加してきた。近年に至っては、経済情勢が悪化する中で、定住外国人の日本滞在の長期化・定住化傾向が見られる。一方、留学生に対しては、平成20年に「留学生30万人計画」が出され、アジア、世界の間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを、より一層拡大させるための「グローバル戦略」政策が現在進められている。

文科省によれば、定住外国人や留学生の子弟達に対する日本語指導のあり方について、「定住外国人の子供の教育等に関する基本方針」⁽⁵⁾として、「①日本語指導の充実等を図ると共に、制度面についての検討を行い、小中学校に入りやすい環境を整備する。②各種学校・準学校法人化を促進する。③留学生に対する日本語教育の体制の充実を図る」ことを挙げている。

その「入りやすい公立学校」を実現させるために、日本語指導の体制の整備、適応支援

等の体制の整備、受入れ体制の環境整備および上級学校への進学や就職に向けた支援の充実も図られている。また、定住外国人の子弟だけではなく、保護者を含む大人に対する日本語指導、ブラジル人学校等の外国人学校における教育体制の整備、さらに、留学生への日本語教育と就職支援の充実など、関係省庁や自治体で連携して取り組む必要性も課題として挙げられている。

これらの文科省の方針を見ると、多文化共生社会の構築がかなり現実的になってきたことが感じられる。しかし、ここで、再認識が必要だと思われるのは、定住外国人とその子弟に日本語指導の充実を図れば、それでよいのかという疑問である。本稿における保護者の言を借りれば、「このまま行くと、遠くない将来間違いなく日本人になると思う。しかし親としては、この問題を繰り返してもう一度考えてみると、何も悪い事ではないが、逆にいろいろな心配が起きてくると思う。」と、漠然とした不安を抱えているのである。定住外国人のとりわけ子弟達が、日本社会で生きていくために、彼らの強みと個性を伸ばした支援体制のあり方を、もう少し検討する必要があるのではないかとと思われる。彼らが成人したときに、日本において、母国の文化が誇れ、日本人の子弟達に負けにくい程度の母語文化を強みとした国際的な人材の育成にも、目を向ける必要があると思われる。このような配慮があればこそ、定住化しても、また、短期滞在で帰国したとしても、日本において母語と母語文化に触れながら育つことで、将来日本と彼らの母国とを結ぶ貴重な人材となっていくと考える。

平成23年度より三重県では、定住外国人の子弟の学習ニーズに応え多文化共生教育の推進を図るために、三重県教育委員会事務局学校教育分野高校教育室が中心となって、県立飯野高等学校に定時制課程が作られる。外国人生徒は日本語の理解に合わせて学べ、学習時間帯も選択できる。また、入門スペイン語・実用スペイン語、入門ポルトガル語・実用ポルトガル語、国際理解などが選択でき、文化や考え方の違いを理解し、共に生きていく力を育むことが目指されている。高校の課程を学びながら、母語も伸ばせる取組みは、定住化が進む多くの外国籍児童にとって、進学を目指し高等教育を受ける励みとなっていくと思われる。このような教育体制が全国規模で展開されることが望ましい。

本事業を通して、留学生支援、地域在住の外国人のために日本語支援を図ると同時に、地域に在住する外国籍児童の母語保持やアイデンティティの確立を支援することで、今後とも地域と協働で多文化共生社会の構築に貢献していきたい。

注

1. 「三重大学地域貢献活動支援について」 <http://www.mie-u.ac.jp/kouken/about.html>

2. 中国語母語保持教室とポルトガル語母語保持教室の学習内容については、指導担当者の記載による。本文中のポルトガル語母語保持教室の保護者や担当教員の感想等は、翻訳して記載した。
3. 中国語母語保持教室は、暨南大学出版社 北京華文學院編による『汉语』と『汉语練習冊』は、<http://www.ryedu.net/kjwy/enet/200807/8764.html> より各自ダウンロードして使用した。『汉语』と『汉语練習冊』、『教師手冊』は、それぞれ第一冊～第十二冊までである。
4. ポルトガル語教科書は三年生の文法の教科書とその副教材、そして就学前の幼児用教材の3種類を使用している。なお、就学前の幼児用の教材は“Vai começar Brincadeira”、Sorel Silva & Arnaldo Rodrigues (著作・編集)、「IBEP」「EDITORA FTD S・A」(出版社)を使用している。
5. 文部科学省「定住外国人の子供の教育等に関する政策懇談会の意見を踏まえた文部科学省のポイント」(平成22年5月19日)『鈴鹿市日本語教育フォーラムパネルディスカッション「確かな学力を育む日本語指導」文部科学省配布資料』からの引用。
6. 鈴鹿市帰国・外国人児童生徒受入促進事業に関わる地域連絡協議会委員在任中の「多文化共生教育推進検討会議」(2007.9.27.)において、外国籍児童の母語の重要性を紹介するとともに、日本語教育で紹介されている日本語能力測定として、①TOAM (Test of Language Acquisition and Maintenance: 言語の習得と保持に関するテスト)(岡崎 2002)、②「年少者用 OPI (Oral Proficiency Interview)」(中島: 2001)、③「JSL バンドスケール」(川上 2007)を紹介した(福岡: 2007)。
7. 福岡(2009)では、三重県教育委員会県立高等学校日本語指導担当者会議(2009.2.24.)において、2の「本事業の概要」で引用した中島(2008)を紹介し、日本に住む外国籍児童の母語の重要性を指摘した。

参考文献

- 岡崎敏雄(2002)「学習言語能力をどう測るか—TOAMの開発・言語能力の生態学的見方」
『日本語教育ブックレット1: 多言語環境にある子供の言語能力の評価』、48-49、国立国語研究所
- 川上郁雄(2007.8.18)「移動する子供たちとJSL バンドスケール」『第6回 OPI 国際シンポジウム』資料
- 中島和子(2001)「子供を対象とした活用法」『ACTFL OPI 入門』アルク
- 中島和子(2008)「多文化共生社会を担う日本語教師へ: 日本語指導における母語の役割」
『平成20年度日本語教育学会第1回研究集会予稿集』、97-105
- 福岡昌子(2007)「外国人児童生徒の日本語指導の効果的方策の検討」鈴鹿市教育委員会「多文化共生教育推進検討会議」配布資料(2007.9.27.)⁽⁶⁾
- 福岡昌子(2009)「日本語教育コースの紹介と日本語教育の実践—4つの視点から考える私たちができること—」三重県教育委員会県立高等学校日本語指導担当者会議配布資料(2009.2.24.)⁽⁷⁾
- 文部科学省(2010)「定住外国人の子供の教育等に関する政策懇談会の意見を踏まえた文部科学省のポイント」(平成22年5月19日)『鈴鹿市日本語教育フォーラムパネルディスカッション「確かな学力を育む日本語指導」』文部科学省配布資料(2010.11.27.)